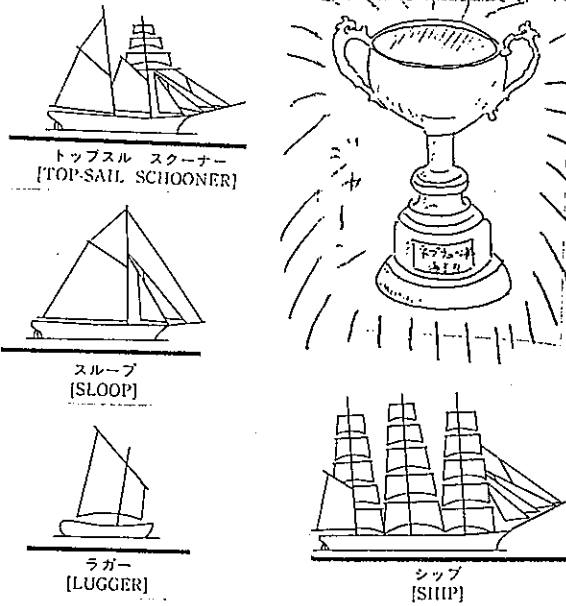


ネブチユニアド杯

十月十五日の展帆日、パーク内(時計台の前)にて海王丸展帆ボランティア運動会(ネブチユニアド)を開催しました。第一回目とあって各マスト対抗としました。各チームとも日頃の団結力をおおいに発揮し白熱した運動会となりました。

競技は①輪投げ競争②やしの実運び③富山新港干拓(海水汲み上げレース)④綱引きの四種でしたが、結果はフォアマストチームが綱引きで奮闘し、優勝いたしました。優勝チームにはネブチユニアド杯が贈られました。この杯は船長公室に保管させていただきます。また、やしの実運びで猛烈な活躍を見せた森田恵子さんと輪投げ競争で華麗なる技を披露した近藤健二さん恵美子さん御夫妻に敢闘賞が、綱引きで笑いをふりまいた尾崎孝さんに「皆を沸かせたで賞」が贈られました。

ネブチユニアドはネブチユニアド(海王)とオリンピックアドを合成したことでありますが、事故もなく、好評のうちに終えることが出来、嬉しく思います。来年度もシーマンシップあふれる競技を期待したいと思います。最後に、競技の準備等でお手伝いいただいたボランティアの皆さん、ありがとうございました。



「ボランティヤ」の集い

来る二月二日(土)恒例の「ボランティヤの集い」を左記のとおり開催いたします。本年度総帆展帆に参加いただいた方も、あるいは都合で参加いただけなかった方も、多数のご出席をお待ちしております。また、当日平成八年度カレンダーをお配りいたします。

日時 二月二日(土) 一八三〇〜二〇三〇
 場所 富山県職員会館二階 富山市新桜町一番二号
 電話 〇七六四四一四〇〇四
 なお、出席の可否を同封のはがきでお知らせください。

ご案内

富山県職員会館
 富山新桜町一番二号
 電話 〇七六四四一四〇〇四

探訪記その一 阪本義治

今回は、始まったばかりのロンドン探訪記を一時中断して前回予告した通りクリッパーシップについて書きたいと思っております。クリッパーシップはどこで、いつころから作られ、そしてなぜそうよばれるのかそのへんのことについて今回は書きます。クリッパーシップはズバリ、アメリカで造られた始末です。植民地時代、ヨーロッパ本國から遠く離れたいたため密輸船や海賊船がたくさん横行していました。これらの船は本國から派遣される軍艦より素早く行動できるものでなくて

はなりません。そこで沿岸航路用の快速帆船が作られ始めたのです。スクーナーは一七二三年マサチューセッツ州のクロスターで初めて建造されました。スloopもバミューダーやジャマイカで作られ始めました。また独立戦争当時はフランス海軍のラガーがアメリカに味方し、オランダ人が伝えたヨットとともにアメリカ帆船の良手本になりました。これらスクーナー、スloop、ラガー、ヨットなどの長所を取り入れてクリッパーシップができたのです。

正式にクリッパーという名称で呼ばれた帆船は一八四六年アメリカで建造されたシー・ウィッチが最初だったと言われています。中国の広東・ニューヨーク間を八十五日で走破し二十四時間航走距離の最高は三五八海里で平均速力一四・九ノットを記録しました。時代は少々異なりますが、フィリッピンのマニラとメキシコを往復するマニラ・ガリオンが片道約半年かけていたのと比べるとはるかに速いです。その速さの秘密はどこにあるのかというところの要因はその船形にあるでしょう。さきほどのマニラ・ガリオンやイギリス東インド会社貿易船の全長は船幅の四倍しかありませんでしたが、一八四〇年代には四・五倍、一八五〇年代には五・五倍になり、クリッパー時代末期を飾ったサーモビリー、カティールサークになると五・九倍にもなりました。ずんぐりむっくりした船形からスマートな船形になり水の抵抗が少なくなつたのです。そしてもうひとつの要因はイギリス東インド会社貿易船を例にとるとクリッパーシップのセイル面積が二倍以上になったことです。

ではなぜクリッパーと呼ばれるのか。クリッパーそのものの持つ意味である「第一級の素晴らしい人または物」そのものズバリだという説と、もう一つはクリッパー(早い速度)から「快速船」という意味としたものだという二つの解釈があります。とにかくクリッパーという言葉そのものがアメリカのものであ

りクリッパーがアメリカ人によって命名されたことは確かです。さて今回はクリッパーの花形、ティークリッパーについてです。

①技術講座開催のお知らせ
 次回展帆日(十一月三日)十二時三十分から、技術講座として「アンペンディングセール」の説明を行います。翌日から「アンペンディングセール」を予定していただきます。要領等を説明するつもりです。アンペンディングに参加される方もそうでない方も楽しんでいただける内容を考えていますので多数のご参加をお待ちしています。

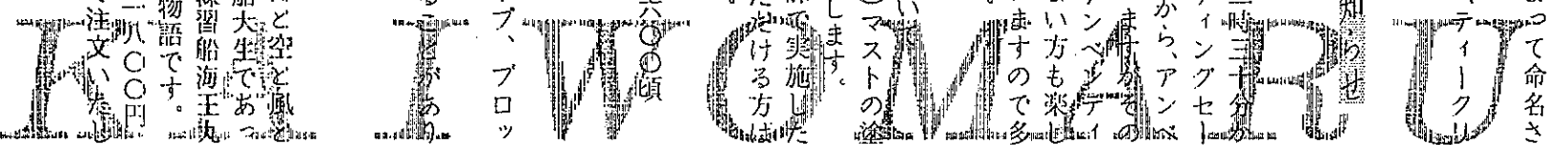
②アンペンディングセールについて
 十一月四日(土)・五日(日)マストの塗装等の作業に備えセール取り外しします。ボランティヤの皆さんと業務課で実施したいと考えていますので、参加いただける方は返信用はがきにてご連絡下さい。

◆作業時間
 両日ともに 〇九三〇〜一六〇〇頃
 昼食を準備いたします

◆作業予定
 四日 横帆取り外し
 五日 縦帆取り外し、ロープ、ブロック収納等

天候により、作業予定を変更する場合があります。

③海の本・「帆船」の紹介
 今川日出男 著「帆船」海と空を風を介して紹介します。かつて商船大生であった著者が、昭和四〇年代当時の練習船海王丸の明るかった実習生活を描いた物語です。成山堂書店からの出版で定価一八〇〇円。ご希望の方はこちらでまとめて注文いたしますのでご連絡下さい。



ボランテイヤ

清開丸の船長が、らいちようのサロンに集まり、この出渠要領及び回航の打ち合わせが行われました。

◆注水

四月五日午前九時三十分、打ち合わせた出渠要領どおり新日本海重工北岸壁付近に日本丸、らいちよう、清開丸、日通丸の各タグボートが集結し、ドックのゲートが開くのを待機していました。ドック内はすでに満水で海王丸が浮かんでおり、ゲートが浮上して開くだけです。

参考までに説明すると、ドックに入渠したときはゲートを閉めてから約四時間かけてドック内の水を排出し、渠底の架台の上に船をのせるわけですが、二時間くらい排水したらポンプの減圧調整を行ってゆっくり排水することになります。というのは海王丸の船底のキールを架台のセンターに合わせ、また、前後方向も計画通りの位置に静かに定着させるのが非常に難しいためで、ドックマスターはじめドックハンズは技術にかかっているともいえます。逆に出渠時にはドック内に海水を注水するのですが、注水前に船底弁の閉め忘れがないかどうか、浮上したとき船体に衝撃を与えるようなものがないかどうかを注意して点検に回ります。この他、船首が先に浮上したら推進器や舵などが破損する恐れがあるため船のトリム(前後方向の傾斜)にも十分な注意が必要になります。

これらの点検が完了したら、ゲートのバルブを少しずつ開き海水の圧力で注水を開始します。半注水し、架台から船体が浮上する前に船体をロープ等で固定し、浮上したらロープを調整して船が前後に走らないように注意します。そうして、ドック内の水位がゲートの外側の海面と同じ高さになったらゲートを浮上させて横に移動させドックの入り口をあげ出渠作業を始めるのです。

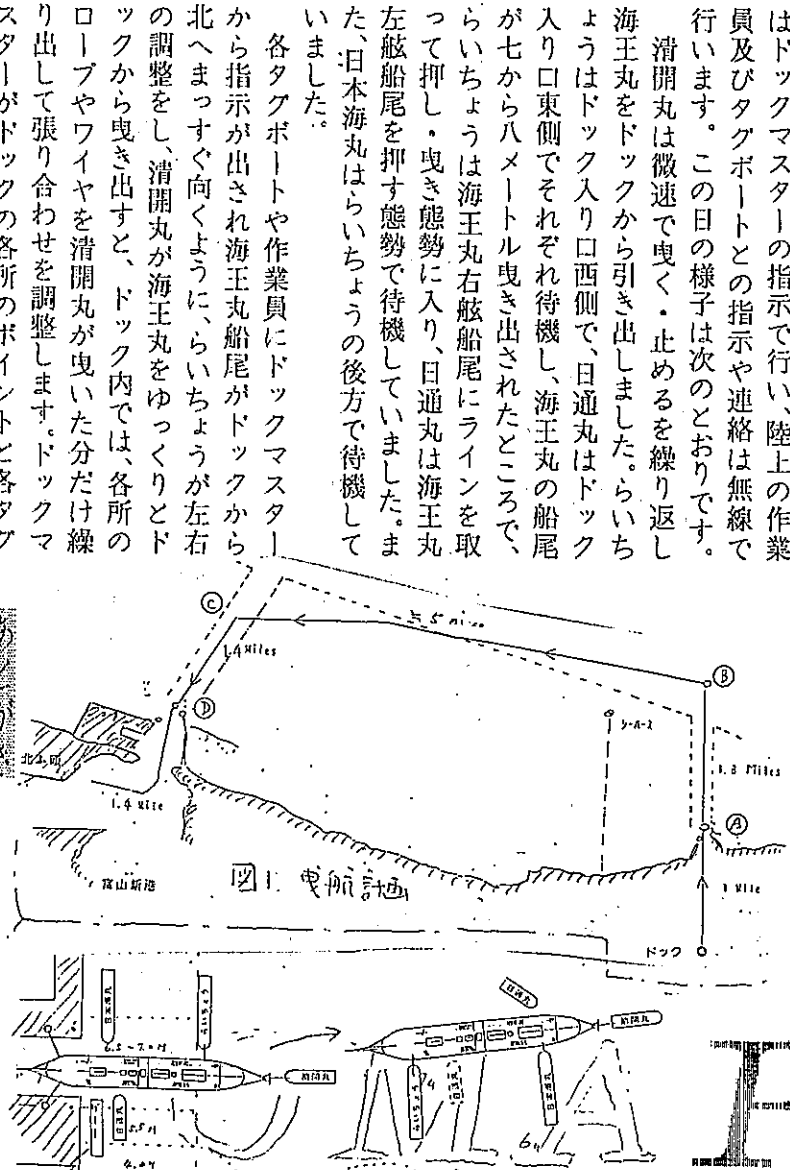
海王丸はドック南側の両サイドのウィンチ、ドック両サイドのガイドローラーそして、北側ゲートの両サイドのウィンチで固められていたが、九時四十五分清開丸が海王丸の船尾にタグラインを取りにいきゆっくり曳き始めると陸上ではこれらのロープ・ワイヤを少しづつ緩めたり巻き締めたりの繰り返しとなります。これらの作業の行程はドックマスターの指示で行い、陸上の作業員及びタグボートとの指示や連絡は無線でいきます。この日の様子は次のとおりです。

清開丸は微速で曳く・止めるを繰り返して海王丸をドックから引き出しました。らいちようはドック入り口西側で、日通丸はドック入り口東側でそれぞれ待機し、海王丸の船尾が七から八メートル曳き出されたところで、らいちようは海王丸右舷船尾にラインを取って押し・曳き態勢に入り、日通丸は海王丸左舷船尾を押し態勢で待機していました。また、日本丸はらいちようの後方で待機していました。

各タグボートや作業員にドックマスターから指示が出され海王丸船尾がドックから北へまっすぐ向くように、らいちようが左右の調整をし、清開丸が海王丸をゆっくりとドックから曳き出すと、ドック内では、各所のロープやワイヤを清開丸が曳いた分だけ繰り出して張り合わせを調整します。ドックマスターがドックの各所のポイントと各タグボートに指示を出し陸上の作業員とタグボートはその指示にアンサーバックをして素早く行動に移るわけですが、その指示の内容は、陸上作業員に対しての巻きワイヤ(巻きロープ)伸ばせ・ストップの指示あるいはタグボートに対してのデッドスロー(微速)・スロー(低速)・ハーフ(中速)・フル(全速)で押し・曳け・ストップ(停止)の指示といったものとなります。

清開丸が海王丸をゆっくり(微速)と曳き出し、海王丸のブリッジ(船橋)がドック入り口から出たところで日本丸がドック入り口に移動し海王丸の右舷船首を押し、の態勢に入りました。同時に日通丸も船尾から

移動して左舷船首付近を押し、の態勢に入り、両タグボートで左右の調整にあたりながら海王丸をドックから完全に曳き出しました。海王丸は、船尾に清開丸、右舷船首に日本丸、左舷船首に日通丸、そしてらいちようが右舷船尾についた状態で新港までゆっくり後ろ向きに曳航されはじめました。



先日弥陀ヶ原に登ってきました。紅葉はすでに終わっており秋の訪れの早さに驚いています。しかし、美女平からしばしば登る山道のふな林は見事な紅葉で息をのんでパノラマから見入っていました。

この頃、海王丸パークの横の防波堤ではさよりがよくつれていようです。日曜日になれば、車を止めるスペースもなく、のどろきにぎわいですが、釣果は好調のようです。ツツを満たしてのほくほく顔がうらやましかぎりです。

本年度の展帆も残すところあと一回となりました。その後は帆をおろしメンテナンスの作業で冬ごもりとなりますが、もうしばらくのご協力をお願いします。

総帆展帆

九月ははつきりしない天気でしたが一〇月は秋晴れの晴天に恵まれた展帆でした。やや風が弱かった両日でしたが皆さんのはつらつとした笑顔が周囲を盛り上げてくれました。

★データ

- ◆月日◇天候◇参加者◇その他
- ◆15◇曇◇62名◇スターボードタックスクエアヤード(パーケンティンバージョン)
- ◆25◇晴れ◇72名◇スターボードタックスクエアヤード

ボランテイヤ訓練

九月・一〇月の訓練で九名の新人ボランテイヤが誕生しました。天候不順で、強風の中での訓練になったときもありましたが、投げ出さずがんばっていただきました。今後の活躍に期待しております。

寄稿

ボランテイヤの磯部さんから海王丸の回航記を寄稿いただきました。長編なので、連載にさせていただきます。

海王丸新港回航記その一

タグボート 「らいちよう」
一等航海士 磯辺富次

◇打ち合わせ

平成六年十月六日(木)富山新港海王丸パークから富山港の新日本海重工に回航され、ドックに入渠した帆船海王丸は、六ヶ月間の大修理によりゲルンマストやシユラウドの取り替えを終えて平成七年四月五日新日本海重工から富山新港の北岸壁に回航することになりました。三月三十一日、住友重機械工業のドックマスター、伏木・富山港パイロット、各タグボート(らいちよう、日本丸、

◇出渠

海王丸はドック南側の両サイドのウィンチ、